



## 地球環境問題と研究開発

専務取締役 坂 口 研 吾

最近とみに地球環境問題への関心が高まり、いろいろの論議を呼んでいる。

現在懸念されている問題としては、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨、有害廃棄物の越境問題、海岸汚染等々があるが、いずれも我々化学工業が関係し、あるいはその大きな原因の一つとなっているものが多い。

これら地球環境問題を文明に付随して発生する必然的なものとしてとらえる見方もあるようだが、やはり二酸化炭素の大気中濃度の増加による地球温暖化、又フロンによるオゾン層の破壊などの問題は、科学技術の成果が主として経済発展のために利用され、そこに環境への影響といった配慮が充分にはなされなかったことが大きな原因であったことを率直に認めねばなるまい。その上でこれらの問題に対する解決策を講じ、又今後新たな科学技術の成果を利用するに際しても、過去の経験を活かして環境と調和した経済発展を目指すという姿勢が必要であろう。

ところで本年度科学技術庁が行なった「先端科学技術研究者に対する調査」によると、研究者の予想にかかわらず地球環境問題が避けられなかった理由として、研究者の問題意識にかかわらず科学技術の利用が経済発展に偏ったためとするものが42%、研究者の問題意識が希薄なため科学技術の利用が経済発展に偏ったためとするものが22%となっている。科学技術の利用について従来とかく経済性が重視され研究者の問題意識にかかわらず開発推進が行なわれて来たことを物語っていると言えるが、研究者自身の問題意識が希薄だったためとするものも意外に多数に上っている。同じ調査による地球環境問題を解決していくための最も有効な方策として、生活スタイルの改善、経済メカニズムの改善とならんで研究開発の推進があげられているが、環境問題解決のための研究開発のみならず一般の研究に於いても研究者は常にその成果がもたらすであろうあらゆる面での影響を意識しながら開発推進を行なってもらいたいものである。